

1. 評価結果概要表

作成日 平成 22 年 1 月 29 日

【評価実施概要】

事業所番号	4571800269		
法人名	有限会社ウエハラ		
事業所名	グループホーム幸ちゃんの家 2 号館		
所在地	宮崎県西諸県郡野尻町大字三ヶ野山 2 1 5 7 - 9 (電 話) 0984-25-7433		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町 2 番 2 2 号		
訪問調査日	平成21年12月16日	評価確定日	平成22年1月29日

【情報提供票より】（平成 21 年 1 月 20 日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	昭和 <u>平成</u> 13 年 10 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	12 人	常勤9人, 非常勤4人, 常勤換算6.17人	

（2）建物概要

建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階部分

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	23,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷 金	有 (円)	<u>無</u>	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 750 円		

（4）利用者の概要（平成 21 年 1 月 20 日現在）

利用者人数	18 名	男性 8 名	女性 10 名
要介護 1	1	要介護 2	2
要介護 3	8	要介護 4	3
要介護 5	4	要支援 2	0
年齢	平均 86.8 歳	最低 82 歳	最高 91 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	野尻中央病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、家族との信頼関係を築くことに努めており、毎月家族にアンケート用紙を送付して意見や要望を出してもらい、検討した結果は必ず家族に報告している。運営推進会議開催に際しては、利用者の家族全員に出席を依頼し、毎回積極的な参加が得られ、活発な意見交換がなされている。また、職員は日々の生活場面において、起床時間など利用者のペースに合わせたケアを行っている。利用者が食事を楽しめるように、モーニングコーヒーの提供や定期的に好みの物が食べられるバイキング式の食事を取り入れるなど、利用者本位の生活を支援している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4）
	改善計画シートを作成し、運営者や管理者を始め、職員全員で前向きに取り組む改善につなげている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	職員は評価の意義とねらいについて理解しており、全員で自己評価に取り組む、サービスの質の向上に努めている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6）
	会議には家族代表や民生委員、地域包括支援センター、行政職員など幅広い立場の人が参加し、ホームからの報告と共に自己評価の内容や外部評価の結果を公表し、積極的な意見交換が行われている。出された意見や要望をサービスの質の向上に生かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8）
	毎月ホーム便りを発行し、利用者の暮らしぶりやエピソードを掲載し、家族全員に報告している。利用者の健康状態や金銭管理については個々に報告している。家族の来訪時や定期的なアンケートを行い、意見や要望を聴き、出された意見や要望は検討した結果を家族に報告するとともに、サービスに反映させている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	地域の中学生、婦人部のボランティアの受け入れや保育所に出向き、園児との触れ合いがある。また、地域に出かけ、食事や買い物を行うなど、地域の人々とのつき合いがある。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の「その人らしく最後まで」の理念に加えて、地域密着型サービスとして何が大切かを職員全員で話し合い、住み慣れた地域で過ごす生活を大切にしたいホーム独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	週1回のミーティング時に理念について話し合い、職員の意識づけがなされており、日々の利用者に対する言葉かけや態度に反映されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の中学生、婦人部のボランティアの受け入れや保育所に出向き、園児との触れ合いがある。また、地域に出かけ、食事や買い物を行うなど、地域の人々とのつき合いがある。今年度は近所の方々を招いて餅つき大会を行う計画である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は評価の意義とねらいについて理解しており、自己評価を全職員で行いサービスの質の向上に努めている。前年度の外部評価の結果は改善計画シートを作成し、改善の実施に取り組んだ。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には家族代表や民生委員、地域包括支援センター、行政職員等、幅広い立場の人が参加し、事業所からの報告と共に自己評価の内容や外部評価の結果を公表し、積極的な意見交換が行われている。出された意見や要望をサービスの向上に生かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町担当者を通じて、家族から出された意見などを相談したり、事業所の実情を知ってもらう機会作りに努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ホーム便りを発行し、利用者の暮らしぶりやエピソードを掲載し、家族全員に送付している。利用者の健康状態や金銭管理については、金銭出納帳にサインをもらうなど個々に合わせた報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時には気軽に意見を言ってもらえる雰囲気作りに留意している。また、定期的に家族アンケートを実施する等、意見や要望などを表せる機会作りを積極的に行っている。出された意見や要望は運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	なじみの職員によるケアを基本としているが、職員が換わる時は、引き継ぎの期間を十分に取り、利用者に説明や紹介をするなどスムーズに移行できるよう配慮している。家族へは、新規採用者をホーム便りに写真入りで紹介している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は、自ら日常的に学ぶことに前向きに取り組んでおり、研修内容は全職員が共有できるよう、ミーティング時に発表・報告している。全職員が段階的に力をつけるための法人内・外の研修を受けるための研修計画が作成されていない。	○	職員の質の確保・向上に向けた育成のために、各職員が段階的に力をつけていけるような、法人内・外の研修機会を確保できるような年間計画の中で位置づけていく運営面での工夫を期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内のグループホーム連絡協議会に加入している。月1回開催される連絡協議会に参加し、学習会や交流を持ちサービスの質の向上を目指している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者は同法人内のショートスティからの入居が主である。合同行事等の交流を通じて職員は利用者となじみの関係がある。自宅からの利用者に対しては、職員が自宅を訪問したり、職員送迎で体験利用を行いながら徐々になじめるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者との日々のかかわりの中で、年長者である利用者から戦争体験を聴いたり、伝統食を教えてもらうなど、生活の技や生活文化の大切さを教えてもらう場面がある。訪問中、利用者から「ありがとう」の声が何回も聞かれた。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族の来訪時には本人の生活習慣を聴いたり、利用者との日々のかかわりの中で声をかけ意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者がより良く暮らすために、本人や家族の要望を聴き、また、職員全員で意見交換やモニタリングを行い本人本位の計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は利用者の状態変化や状況に応じての随時の見直しは行っているが、定期的な見直しは6か月に1回となっている。また、中には家族の同意を得た期日が明記されていないものがある。	○	安定しているような利用者の場合も3か月に1回の介護計画の見直しと同意を得た期日の記載を望みたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望に応じて、受診や行きつけの理髪店への同行、生まれ故郷への外出など柔軟に支援している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでの掛かりつけ医を基本としている。家族の同意を得て、協力医との連携もできおり、受診結果に関する情報の共有もできている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に伴う同意書を作成し、家族、医師、看護師、職員を交えて話し合い、方針の統一を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日ごろより、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーの確保については、ミーティングの折に職員の意識づけがなされている。また、記録等もしっかり保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間をはじめ生活場面においては、利用者一人ひとりの体調やペースに配慮しながら柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は利用者と職員が同じ食卓を囲んで、同じものを食べながら和やかな雰囲気の中で、職員はさり気なく食事介助を行っていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は決めてはあるが、利用者が希望する時間に入浴してもらっている。また、季節によっては菖蒲湯やゆず湯を取り入れたり、身体が十分に温まるようにエアマットを利用するなど、入浴が楽しいものとなるように工夫している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	干し柿作りや雑巾等の縫い物、洗濯物たたみ、食事後の盆ふきなど利用者の経験や知恵を発揮できる場面を作っている。また、墓参りや故郷訪問などの遠出、外食など利用者と相談しながら行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気、本人の気分や希望に応じて、車椅子等を利用して、できるだけ戸外に出かけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、施錠しない生活を支援している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、消火器の使い方など年1回の防災訓練を行っている。また、毎月1回、自発的に避難訓練を行っている。非常用食料の備蓄もある。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的に体重測定を行っている。毎日の食事摂取量、水分摂取量をチェックし、把握している。栄養バランスやカロリーは同法人の栄養士のアドバイスがある。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には温・湿度計、加湿器が置かれ、室温、湿度、空気の流れ、採光、季節の花など五感刺激への配慮がされおり、利用者にとって居心地の良い場所となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、なじみの家具、目ざまし時計、テレビ、ラジオ、家族の写真などが置かれ、利用者が安心して過ごせるよう配慮されている。		

※  は、重点項目。